

地域日本語教育プログラムまたは教室の名称： 菊池市立中央図書館主催「にほんご教室（おとなの部）」／「にほんごカフェ」／「トライアルにほんご教室」

## I. ①課題の背景、および実践の内容

### A.現状把握

◎菊池市では約770名の在住外国人の方々が居住しているが、菊池市立中央図書館主催の日本語教室は菊池市市街地で行うため、市街地以外の外国人の方が参加しにくい状況がある。そのため、今年度から日本語を用いた活動の場である「にほんごカフェ」を各支所で3～4か月に一度の頻度で行っている。

◎菊池市立中央図書館主催の日本語教室には多くの日本人ボランティアの方が参加しており、日本語教育資格取得者（日本語能力試験、420時間講習修了者）や取得のために勉強に臨んでいる方がいる。ただ、その方々が日本語教育活動に関わる機会は中央図書館主催の日本語教室のみである。

### B.課題設定

上記のように今年度より日本語活動を試行しているが、菊池市の多文化共生事業として、日本語活動、日本語教室を支所ごとに月一度、開催し運営していきたいと考えている。ただ、中央図書館と各支所（七城、旭志、泗水の三か所）で定期的に日本語教室、日本語活動を行っていくのは、現状、労力的に厳しいものがある。そのため、現在、中央図書館の日本語教室に参加している日本人ボランティアの方々に、各支所での日本語教室、並びに日本語活動の運営、実施に携わっていただけるよう指導者育成を目的とした授業実践、教室実践を試行する。

### C.実践内容

上記の通り 1.日本人ボランティアの方々の指導者育成を目的とした授業実践活動と、2.菊池市各支所での日本語教室・日本語活動の試行を行っている。

1.現在、授業実践を行っているのは日本人ボランティアとして参加している方と図書館で日本語活動をサポートしてくれている方々である。元々、日本語教育に関わる方もいれば、この活動で初めて日本語教育に触れたという方もいる。菊池市立中央図書館主催「にほんご教室（おとなの部）」『まるごと+初級1（A2）』を使用し日本語活動を行っている。そこで『まるごと+初級1（A2）』のトピック項目ごとを割り振り、日本人ボランティアの授業実践を行っている。10月から授業実践の準備を行っていき、2月1日までに5人の授業実践を行っている。

2.菊池市各支所で「トライアル日本語教室」と題し、2022年1月16日（日）菊池市泗水支所、2月20日（日）七城支所、3月20日（日）旭志で開催する予定である。ただ、1月16日（日）菊池市泗水支所については、コロナ感染の拡大に伴い、参加を予定であった実習生たちの所属企業から断りの連絡があったため中止とした。2月20日（日）七城支所、3月20日（日）旭志での開催する方向で進めている。

10月以降では、中央図書館と各支所で行う「にほんごカフェ」を、10月2日七城「折り紙をやってみよう」、10月9日中央図書館「ゆかたを着てみよう」、11月6日泗水「習字をやってみよう」、1月8日七城「日本のお正月を体験しよう」という内容で活動を行った。2月5日中央図書館では菊池女子高校も参加し活動予定であったがコロナ感染の拡大により中止とした。3月5日旭志の活動は実施する予定である。

## ②地域日本語コーディネーターとして果たした役割

今回の授業実践活動に参加希望の日本語ボランティアの方々には、今年度に入り授業実践を計画している

ことを周知し、授業実践活動の目的と意図を明確に伝え、共有した。そして日本人ボランティアの方の希望日時と『まるごと+初級1 (A2)』のトピック内容を考慮し、授業実践のスケジュールを決めた。ミーティングの中で、1. 地域日本語教育の役割、位置づけ 2. 授業計画のポイントと進め方 3. 日本語指導の基本的な知識（文型や用語など）、といった授業実践に必要な講習を行った。それぞれのボランティアの方と授業案や資料などの練り直しを行い、授業実践の際によりわかりやすく実践しやすいようにサポートを行った。

### ③実践を通して「行ったこと」「考えたこと」の変遷

当初、授業実践を行うことが日本人ボランティア方の負担とならないかが一番の懸念であった。幸いにも、今回は日本語教育に触れたことがない人達も興味を持ち、実践へと臨んでいる。その中で、これまでに日本語教育には全く関りのないスタッフが、図書館の中の写真を撮り、学習項目と合わせて、図書館を利用することを目標に授業を組み立てた。学習者の反応もとてもよく、何より実際の図書館利用に沿った教材を作成していたことに非常に感心させられた。授業実践のフィードバックやインタビューから、授業に対する肯定的な振り返りのみならず、青年海外協力隊やカナダでのワーキングホリデーといった新たな目標に向かうという人もいる。

「にほんごカフェ」に関しても、各支所から定住外国人との日本語活動はとても有意義であり、各支所も率先して行っていききたいとの要望をいただいている。

また、これらの日本語活動を通じて、想定していなかったつながりや活動が生まれている。

菊池市にある中学校より、国際理解のための授業の中で定住外国人の方達の発表依頼を受け、11月9日、「にほんご教室」に参加している外国人の方達が、中学生たちに向けて発表を行った。

1月8日七城での活動では、熊本県玉名市国際交流協会が事業視察に訪れ、活動についての説明を行った。その他にも地域の婦人会や人権擁護委員会、菊池高校生などが活動に参加していただいた。

### ④地域日本語コーディネーターとして自身が大切にしたい視点

昨年度から日本語教室に参加しているカンボジア人実習生が、冬休み前に授業感想を述べる際、「わたしのうぎょう ひとりです。まいにち さびしい。でも、火曜日が たのしみです。」と目に涙を浮かべ、声を詰まらせながら発表してくれた。本当に日本語教室を必要としてくれているのだと痛感させられたとともに、教室活動を継続していくのが何よりも肝心なことなのだと実感したことがあった。

また、授業実践を行ったボランティアのインタビューからも、現在行っている授業実践は上下関係ではないフラットな語り合いによってできており、それぞれが主体的に教室活動に参加していることがわかる<sup>1</sup>。日本語教室の参加者は外国人、日本人を問わず自分自身を語り、他人の物語に耳を向けることを通じて共感的で創造的な学びの場を共有することができているのである。そして、その共有の場である日本語教室を安定的に運営していくことが今後の課題だと考えている。

### ⑤実践において、難しいと感じたこと、今後に向けて知りたいこと

現在のコロナのまん防下、希望者の対面とオンラインの併用で授業を行っているが、事前に参加者が確定しづらく対応が難しい。加えて、上述したが、今後の安定的な教室運営に向けた検討について、どのようにアプローチしていくべきか、具体的な事例を知りたいと考えている。

## II. 今後の計画について

①日本人ボランティアの授業実践活動 2022年2月8日、2月22日、3月1日 実践活動予定日

②菊池市各支所での日本語教室・日本語活動の試行 菊池市各支所で「トライアル日本語教室」と題し、2022年2月20日（日）泗水支所、3月20日（日）で開催する予定である。

③来年度活動として、菊池市中央図書館で週に一度の日本語教室、各支所では「にほんごカフェ」と日本語教室を組み合わせて月に一度の活動を行っていく予定としている。

---

i 支援ボランティアの声 澤田大嗣さん（1月27日のインタビューで）

「にほんご教室」はすごくやさしい場だなと思います。自分は今福祉の仕事をしていて友達と遊ぶ機会も少ないので、「にほんご教室」は職場と家ではない場所、自分にとっては息抜きの場所です。

「にほんご教室」では、外国人も先生もボランティアも全員が同じ感じがします。批判したり、ぎすぎすしたりなどマイナスな部分が全くない。まるで学校の教室のようで、好きな人たちと切磋琢磨する場みたいな感じがしています。日本人同士も普段は何の関係もない人たちなのに、「次はこうしましょう」とか「こんな風に伝えたら」とか日本語を教えるという目的のために、意見を出し話し合っていてすごいなと思います。

「にほんご教室」という存在が、横のつながりを作ってくれていると思うんです。